

10. 2023年度日本数学会賞春季賞、 出版賞の授賞について

【春季賞】

日本数学会賞受賞候補者選考委員会からの選考結果報告に基づき、春季賞は京都大学数理解析研究所の**入江慶氏**に授賞されました。授賞理由は、
‘接触幾何学, シンプレクティック幾何学とストリングトポロジーの研究’

(英訳: Study on contact geometry, symplectic geometry and string topology) に関する業績です。また、3月16日に中央大学理工学部において授賞式並びに同氏による‘閉補題とシンプレクティック幾何’と題する受賞記念総合講演が行われました。

【出版賞】

出版賞選考委員会からの受賞候補者選考結果報告に基づき、出版賞はつぎの方々に授賞されました。授賞式は3月16日に中央大学理工学部において行われました。

飯高 茂 氏

授賞理由:氏は代数幾何学に関する本格的な教科書や入門書を執筆し、その分野の研究と教育において大きな役割を果たすとともに、数学を専門としない一般の読者にも楽しめるような書籍を執筆し数学の普及に貢献してきた。また、様々なシリーズの編集にも携わっており、その中の一つであるシリーズ「数学のかんどころ」は素朴な話題から専門的な対象までを取り上げ、数学ファンから専門的な数学を学び始めた学生まで幅広い層に向け、読者を引き込む工夫がなされた優れた書籍を多数刊行している。飯高氏の長年にわたる精力的な出版活動による数学の研究・教育・普及への寄与は出版賞に値するものである。

梅田 亨 氏

授賞理由:氏による日本語の単行本には、月刊誌「数学セミナー」の連載から生まれた「徹底入門 解析学」、「森毅の主題による変奏曲 (上) (下)」の他に、放送大学のテキスト「代数の考え方」がある。いずれの著作も啓蒙的

である一方で、読み物としての魅力にも溢れている。教科書でとり上げられる内容を扱ってはいるが、そこには独自の切り口による警句が満ちている。「連続関数のリーマン積分可能性には一様連続性が必要」だという〈迷信〉についての「歴史的」考察はその一例である。「思う存分時間をかける贅沢を味わってほしい」との意図のもとに書かれた、決して単純に「わかりやすい」わけではない本によってこそ伝えられる数学の醍醐味もある。梅田氏の著作は、学生のみならず広い分野の理系の研究者、そして数学ファンにとって貴重な資料であるだけでなく、研究・教育の道標であり、学問の深い喜びまでも提供してくれる。また共著「ゼータの世界」や共編著「多変数超幾何関数」などの著作活動を通して、梅田氏の数学の教育・普及への貢献は大きく、出版賞に相応しいものである。

岡本 健太郎 氏『アートで魅せる数学の世界』

授賞理由:美しい図版に溢れた魅力的な本である。数学の世界には視覚的に美しいものが数多く存在する。本書は視覚をきっかけとして数学の世界に存在する興味深い対象を紹介する著作で、各対象の背景にある数学的な内容を、まったく手を抜かずに、しかもわかりやすく解説する姿勢が貫かれている。さらに折り紙と関連する作業や、表計算ソフトを用いたグラフィックの演習など、単に見ただけではなく読者が自ら数学的対象を観察し、考えることができるような工夫がなされている。五感を通して数学を楽しむ機会を提供する良書であり、数学の普及に大きく貢献するものと期待される。